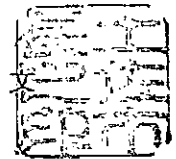


20土都計第259号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

高知県土佐市長 板 原 啓



今後の道路行政の意見・提案について

標記の件について、別紙のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

高知県土佐市

- 中期計画の見直しに際しては、昨年度計画の基本事項を大きく外すことのないように策定していただきたい。また地方の声を十分汲み取ったうえで策定し、その内容については地方にとってイメージしやすい施策としていただきたい。
- 道路整備に対する費用便益分析について、高知県が策定している通行規制解消便益、救急救命上昇便益等(安心・安全を確保する「命の道」の評価)、地域特性に応じた新たな指標の設定が必要であり、地域間格差の是正が必要である。
- 道路特定財源の一般財源化によって整備中の区間や計画決定区間等の整備に遅れの生じることのないよう、また、道路整備費の縮減を行わないようお願いしたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

○ 現状

平成14年の四国横断自動車道土佐IC供用開始及びアクセス道となる土佐市バイパスの開通により高岡中心部の慢性的交通渋滞が緩和され高知市・南国方面への利便性は格段に向上、地域の活発な交流と生活の幅が拡大している。

その一方では、現在市内には7路線が都市計画道路決定されてはいるが未整備区間が多く、一般道路においても幅員狭小で快適な交通環境は確保されていない、また周辺住宅地内の生活道路も行き止まり道路や狭隘道路も多い。

人口密集地や山間集落では救急車両が入れず救急活動に支障をきたす道路が多く存在している。また山間地では人家が多数存在する集落であっても、斜面が急勾配のため整備コストが高く生活道路の改良は遅々として進んでいない。

歩道では、土佐市バイパス等一部幹線道路は安全な空間が整備確保されているが、その他の道路は国道56号線・県道でさえ中心部以外は整備が遅れている

(1) 急斜面での県道改良工事



○ 課題

朝夕のラッシュ時には西方からの市街地流入車両による交通渋滞が発生しており土佐市バイパスの早期延伸が課題となっている。

都市計画道路の未整備路線については廃止を含めた早急な見直しが課題となっている。

集落部の狭隘道路の改良整備や行き止まり道路の解消、救急救命活動への命の道の整備、また、災害時における避難路確保を目的とした道路整備等、道路ネットワークの機能充実が課題となっている。

高齢者・障害者・子供等、交通弱者への安全な歩行空間の拡大が課題となっている。

(2) 軽車両の通行もできない市道



②-2 地域の目指すべき将来像

高知県土佐市

○土佐市の将来像

土佐市では、伝統ある工業・農林漁業を継承しつつ、中心市街地の魅力と活力の再生や、観光振興などによって活発な地域間交流と自立した地域社会を確立しながら災害に強く、市民の誰もが安心して暮らせる環境づくりと、良好で美しい自然に囲まれた固有の景観・地域資源を守り・育てることで個性ある「ふるさとづくり」を推進する。

○広域幹線軸としての道路

市の一次・二次産業の物流や都市の交流等に利用される高知自動車道を広域幹線道路としての道路に位置付ける。

○都市軸としての道路

隣接都市や市内各地域を結び通勤、通学、物流等に利用される国道、県道を都市軸としての道路に位置付ける。

○生活軸としての道路

都市軸を補完し、円滑な地域内交流を支える市道を生活軸としての道路に位置付ける。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

高知県土佐市

| ○ 重点事項                               | ○代表事例                                                                                                                                                      | ○ 期待する効果や評価等                                                                                                                                                        | ○その他 |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| <p>・地域活力の向上<br/>（高次医療施設への搬送時間短縮）</p> | <p>・過去3年の救急車による高知・南国市方面への搬送回数はH17年664回、H18年698回、H19年767回と増加しており、うち約8割が高速道路を利用している。土佐ICは市中心部にあり西部・戸波方面からの搬送では国道56号線主体となるが交通渋滞箇所を通過することも多々あり支障をきたすことがある。</p> | <p>・土佐 IC へのアクセス道路(国道56号土佐市バイパス)の延伸や土佐・須崎 IC との中間に位置している土佐PAでのスマートIC整備により搬送時間の大幅な短縮が図られかつ救急患者への負担を軽減することができる。さらには地域住民の通勤・通学等の利便性の確保や物流幹線の確保による地域活力の向上も図ることができる。</p> |      |